

文学部英文学科の名称変更について

変更の事由及び時期

1. 新学科名並びに変更の時期

平成 26 (2014) 年 4 月 1 日より、フェリス女学院大学文学部英文学科は学科名を改称し、新学科名を英語英米文学科とする。

2. 変更の事由

英文学科では、「英語のフェリス」の伝統を維持しながら、グローバル化する世界を視野に入れ、国際語としての英語の運用能力を高めながら、英語圏全体の理解へとつながるプログラムを展開している。具体的には、(1) アメリカ、イギリスをはじめとする英語圏の「文学」「芸術」「映画」、(2) 英語圏の「ことば」と文化、(3) アメリカやイギリスの政治、社会、思想、歴史、宗教などを対象とする「地域研究」を柱とし、さらに(4)「翻訳」「通訳」「英語教育」「第二言語習得」などの「コミュニケーションの手段」としての英語の技能の習得や研究を目指す科目などが設置されている。

特に近年、(4)の分野の重要性を考え、「同時通訳技法」「時事英語研究」「日英語の発想と表現」などの科目を専門科目の中に設け、共通科目に設置されている「英語インテンシブ・コース」などと効果的に結びつけることで、専門課程の履修のなかでの英語学習が有意義になるように配慮されている。

英米文学を歴史・民族・思想・文化等の多角的な視点から学ぶことで幅広い視点を持って社会に貢献する人材を育成していくという従来の教育方針に加え、近年のさらなる英語運用能力の涵養という教育方針を合わせて徹底していく。

現在の名称の「英文学科」に「英語」と「米文学」を加えて「英語英米文学科」とすることで、より現状に合った学科名に整え、現在の学科の研究教育の実情に即した、そしてその目的をより充実させながら広い視野から英米文学・文化を捉えるという学科の教育指針を明確にしていく。

以上の理由から、学科名変更を届け出る次第である。

文学部日本文学科の名称変更について

変更の事由及び時期

1. 新学科名並びに変更の時期

平成 26(2014)年 4 月 1 日より、フェリス女学院大学文学部日本文学科は学科名を改称し、新学科名を日本語日本文学科とする。

2. 変更の事由

日本文学科の人材養成目的は、「日本語・日本文学、日本文化に関する学びを通して、調査・研究・創作に関する能力を身に付け、ことばと表現に関する豊かな感性と知性を育み、歴史性・社会性を伴う幅広い視点を持ち、社会に貢献する人材を育成する」(平成 20 年 4 月策定)というものである。この人材養成目的を現実の教育の場で具体的に展開するために、(1)日本の言語と文学、(2)世界の中の日本文学、(3)日本の文化と歴史を体験する、(4)日本語教育、の 4 つを教育の柱として掲げ、基礎教養科目・総合課題科目・語学科目と連携を取りながら専門教育のカリキュラムを構成している。

また平成 24(2012)年には、「文学離れ」という社会的傾向の中で、「文学」を教育体系の中にどのように位置づけていくか という視点を明確に打ち出し、カリキュラムの改編を行った。ここでいう「文学」とは、必ずしも「文字で書かれたもの」、「文字化されたもの」だけではない。詩や小説や物語などの文学作品はもとより、マンガ、アニメ、絵画、映画、映像、地図、広告(CM)、人のしぐさや表情、場の雰囲気など、人間を取り巻くあらゆる現象・事象を「テキスト」とする立場である。「人間を取り巻くあらゆる現象を読み解く力(読み解きのプロ)」、「的確に自らの思考を表現する力(表現することのプロ)」を育成し、さらに日本語・日本文学・日本文化という多角的な方面から日本を学ぶことで、自分を固め、世界に羽ばたく人材を養成することをより強く打ち出すカリキュラム改編である。

具体的には、日本語教育・日本語リテラシーを強化するために、それまで「選択科目」だった「日本語教育」関連科目を、「選択専門科目」の中に体系別に入れ込み、さらに日本の歴史・思想・民俗・文化等の日本語日本文学の周辺領域をも十分に学んで、広い視野から既存の学問の枠組み・方法論を問い直してゆくことを可能とするために、基礎を固める科目を整備・充実させた。それにより、大学入学直後のレベルから、専門的な講義の聴講・論文の執筆が可能なレベルへ、各分野とも段階的に履修を進め、力をつけていくことが可能となっている。

平成 20 年に策定された学科の人材養成目的と、その目的をより具体化するための平成 24 年に完成したカリキュラム改編により、学科名称を、日本文学科から日本語日本文学科に変更するための十分な素地が形作られたと考える。以上のことから、学科名変更を届ける次第である。